



2014年7月

発行者: 日本ろう者テニス協会

尾形スタッフ

2014ドレセ・マエレ杯 スタッフ総括

■航空の超過料金

今回利用したデルタ航空は、機内に預ける荷物は2個目以降に超過料金1万円発生します。遠方で長期間の遠征の場合、選手はトランクとラケットバッグは必要最低限の荷物になるので、超過料金の負担について取り決めが必要と思われます。国内線での移動を伴う場合は、航空券を国内線+国際線のセットで購入しないと、国際線扱いされず、国内線では20キロの重量制限を超えた場合超過料金を支払うことになります。

■現地入り時のホテルまでの移動

現地到着後、ホテルへの移動は日本人ガイド付きの送迎でしたが、これは長旅で疲れているメンバーの負担軽減、現地情報収集の意味で非常に有効でした。

■現地の気候

高温多湿であることは確認済みでしたが、日本の真夏の気候をイメージしていました。到着時、現地の人の話を伺ったところ、湿度が高く、かつ日本の日焼け止めでは間に合わないほど日差しが強いことが判明しました。

→現地の日焼け止めを購入。

■ホテル周辺の下見

初日の練習時間までの空き時間に、ホテル周辺を歩いて下見しました。周辺の雰囲気や、どのようなお店があるのか病院はあるのかなどを確認しました。

■昼食

事前調査と相違して、ホテルの近くに徒歩で行けるスーパーがないとの現地情報だったため、ホテルチェックイン前に、スーパーへ寄ってもらい日持ちするパン、バナナ、水を多めに購入しました。でも幸い、ホテルの朝食は持ち出し可だったので、昼食はホテルの朝食から調達することで定着しました。

試合中はスポーツゼリーやバナナなど胃に負担がかからないものを充実させる必要があります。食事は、全員試合が終わって落ち着いてから各自でとっていました。

■夕食

今回宿泊したホテルでは、深夜までダイニングルームが開放されていましたが、夕食の取り扱いはありませんでした。

夕食の調達は、試合後ホテルに戻る際に、現地日本人の方の送迎でスーパーに寄ってもらい、惣菜を購入し、ホテルのダイニングルームでいただくことが多かったです。

もし現地日本人の方の送迎がない場合は、タクシーでホテルに戻る途中スーパーに寄る方法になりますが、タクシ一代をぼられる恐れもあり安全面でもリスクが高いです。

いったんホテルに戻ってからレストランへ行く方法は、長い距離を歩き、レストランが一か所に集中していないため、効率が悪くなります。

■選手のドリンク

各自の適量、好みがあるため、ドリンク購入や準備は各選手の責任でやりました。

■氷

ホテルに製氷機があることを事前にホテルのHPで確認済み。

クーラーボックスは男女で1つずつ使用。しかし氷を入れる袋がなく、フロントからビニール袋をもらうが薄く、破れて水もれてしまいました。

→厚手のポリジッパーを購入

テニスコートに製氷機があることが判明したので、テニスコートで氷を調達。

■TD会議

オフィシャルホテルにて実施されたTD会議に内藤コーチ・尾形が出席しましたが、国際手話、英語力がないと内容を理解するのは難しいです。

■移動手段

朝ホテルで予約したタクシーが時間通りに来ないことは珍しくないようでした。

その国の時間のモラルを事前に確認し、ルーズであるようなら、別の移動手段を検討する必要があります。

また、行先を告げても伝わらなかつたり、運転手が場所を知らなかつたりするので、行先の名前、住所、電話番号を英語で記載したもの、そして地図も用意する必要があります。

今回は、現地日本人の方による送迎にとても助けられました。

■部屋の鍵の管理

各部屋の番号を控え、コーチ、スタッフで各部屋のスペアキーを所持しました。

■Wi-Fiルーター

前回のブルガリアのデフリンピックでは、原則チーム全員での行動なので1台のみでしたが、今回は、男子と女子で試合が分かれるため2台レンタルし、(予約のうえ出発時成田空港で受け取り。2台で約2万円)内藤コーチと尾形が所持しました。

無料Wi-Fiが使用できたのはホテルだけで、それ以外はWi-Fiルーター使用でした。

雨天で男子と女子で試合会場が分かれた時は、試合の進行状況の確認、帰りの待ち合わせの連絡でWi-Fiルーターが2台あって本当に正解でした。

Wi-Fiルーターの使用は、内藤コーチと尾形のみでしたが、最終日の自由行動から全員が使用できるようにしました。

■メンバーどうしの連絡手段

グループラインを活用しました。

外出中、通信環境がない場所で万が一はぐれた場合は、人数が多い側は動かず待ち、人数が少ない側が探す、という取り決めをしました。

■報告の作成

最初は、解散後の深夜にその日のレポートを作成していましたが、疲労と睡魔で頭が回らず効率が悪かったです。早朝に2時間早く起きてレポートを作成する方が効率よかったです。その土地の時差にもよりますが、今回は12時過ぎ就寝、4時起床でした。

また、試合の待ち時間なども活用しました。

■Facebook

日本ろう者テニス協会では主に結果報告、deaf tennis japan では広範囲のテーマで使い分けをし都度更新しました。

■試合情報収集

今回の大会運営は行き当たりばったり的で、試合進行表の掲示がなくディレクターが持っている紙一枚のみ。ディレクターを捜して、時間や場所の確認、オーダーをしなければなりませんでした。

最後の監督反省会も、反省会実施30分前にコーチに初めて連絡が来るという有様で、参加できませんでした。

また、雨天時のテニスコート移動やホテルへ戻る手段を探すのが大変でした。

前回のトルコでは、試合に関する情報はホテルで掲示されていたと聞いています。今回もそうだったのかもしれません。

今後はこういうイレギュラーなことがあっても対応できるよう、オフィシャルホテルに宿泊するのがいいと思います。

■オフィシャルホテルのメリット

毎日のテニスコートへの移動手段がある

試合情報の収集が迅速かつ確実にできる

イレギュラー時の対応がすぐできる

以上